

## 総合的な学習

今、学校では、地域に根ざしたさまざまな教育内容を盛り込んだ学習を行っています。従来とは異なり、教科の枠を超え、体験活動などを通して自らの「生きる力」を育むという取り組みで、「総合的な学習」といいます。この学習を通して、子どもたちは自ら学び、考える力を身につけ、問題を解決する能力を育てています。

桜ヶ丘中学校では、「共に生きる」をテーマに総合的な学習に取り組んでいます。具体的には、生徒同士の「仲間づくり」を重要な課題として、取り組んできました。

学習を通して生徒たちは、自分自身の行動を振り返り、周囲の友達との関係を築き上

## 桜ヶ丘中学校の総合的な学習から

# 「共に生きる」をテーマに

げていく中で、仲間づくりの大切さを学んでいます。

差別は、人と人との関係から生まれます。生徒たちに「差別とどう向き合い、行動すべきかを考え、あらゆる差別の解消は、自分たち一人ひとりの問題である」という思いを感じ取ってほしいと考えて学習に取り組みました。

## 差別とどう向き合うか

昨年十一月に、仲間づくりを基本としたあらゆる差別をなくす取り組みを実践している森口健司さん（徳島県教育委員会）を招待して、全体学習（各クラスの代表生徒を中心に語り合い、そこから全体へと広がっていく学習）を実施しました。この学習は、生徒たちの心を揺さぶる貴重な時間となりました。

当日は、約七百名の全校生徒が体育館に集合し、自分の

思いや願いを述べ合う中で、差別とどう向き合い、どう行動するかを学校全体で考えました。

森口さんの講演の後、約一時間にわたって、クラスの代表者が自分たちの思いや願いを述べていました。その様子を紹介します。

生徒のAさんは、「（森口）先生の話にあつたように、自分の差別心について、か悪い心話し合って、お互いによくなっていけるようなつながりを、どんどん増やして行きたいと思いました」

また、Bさんは「私はさつき、一年生の人が自分の不安だったことなどを話すのを聞き、みんなの前で言えるのは、すごいなと思います。それに、私は本気で話せる人があまりいないので、これから本気で話せる

人がたくさん増えたらいいなと思いました」と真の友達の大切さを素直に学んでいます。

また、先生から「この時間が終わった時に、晴ればれとした自分をつくるためにも思いっきり自分の中にあるものを出して行きましょうよ」

という呼びかけにCさんが「自分にも障害のある弟がいます。今までは、弟のことを友達に話すことができませんでした。でも、今日の話聞いて、とても刺激を受けました。これからは友達と何でも話せる関係をつくっていいこうと思います」と、これまでの自分が足りなかったかに気づき、勇気ある発言につながっています。

## 豊かな「コミュニケーション」

この全体学習をきっかけとして、各学級でも生徒一人ひとりの思いや願いを大切に、他の人の思いを自分自身に重ねて共有すれば、かけがえのない仲間づくりにつながることができるという手応えを感じ取ることができました。

自分の思いを自由に話し合えることができる豊かな人間関係が、仲間づくりに重要だということを生徒たちを知ってもらい、これからの教育活動に活かしたいと思います。

問い合わせ先 ▼人権・同和教育課（☎20-3375）



森口さんと桜ヶ丘中学校の生徒のみなさん